

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105151		
法人名	株式会社 メディカメント		
事業所名	グループホーム いやしの家 富田町 (3ユニット共通)		
所在地	岡山市北区富田町1-4-5		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105151-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 5 年 3 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岡山駅から徒歩15分の市街中心部にホームがあり、交通や買い物等充実したりッチである。西川緑道公園が目の前にあり、いつでも散歩が出来る環境である。1日1回は、大声で笑いしっかり食べてのんびり過ごしている。季節ごとの行事については、コロナ禍でも楽しめる様に室内でおやつ・果物狩りや1階の駐車場で運動会をしている。秋には芋ほりに行き焼き芋にして皆様と楽しんでいる。

事業所は岡山市中心部に位置しており、買い物には極めて便利である。また、建物の前には桜並木があり、利用者の日々の散歩にも好適の条件下にある。優れている点として挙げられるのは次の4点である。第一に、職員手作りの食事を毎食提供し、利用者の残食がないこと。第二に、コロナ禍でも外出の機会をとらえて実行していること。第三に、入浴時など職員の言葉かけが機知に富み、タイミングが適切であること。第四に色々な場面で職員の笑顔が見られ、永年勤務者が多いこと、がある。工夫点としては、利用者の入浴支援を様々な工夫していることが挙げられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の暮らしのケアプランに添った支援をしている。	法人の理念は各階のスタッフルームに掲示している。それに基づく年間目標を各ユニットの職員が作成し、月に一度のミーティングでケアを振り返ることで実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1度の資源ごみの日は参加していたがコロナの影響により当番が無くなった。	町内会に加入し、地域の清掃時には利用者・職員も参加している。コロナ禍以前は、公民館の餅つきや夏祭り等にも参加していた。また、近くの高校や中学校の職場体験学習も受け入れていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の清掃作業があれば参加していたがコロナ禍により個々で西川の歩道を清掃している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により運営推進会議を行っていないが家族との連絡は取っている。	地域包括支援センター・町内会長・家族が参加して開催していたが、コロナ禍の現在は実施していない。5月以降の再開を検討している。	外部の人を入れて会議を開催するには厳しい状況にありますが、定期開催に向けて取り組むことに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とみつに取り組んでいるとは言えないが、生活保護課とはよく連絡を取り合っている。	ホーム長及び各ユニットの管理者が内容によって役割を分担して岡山県・岡山市と連携している。必要に応じてメール・電話等を使い分けて連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、目の前が国道があり交通量が多い為行っている。身体拘束を行う時は、スタッフ会議、家族への状況報告をして同意を得る。	建物の前を国道が通っているので、やむを得ず玄関は施錠している。各ユニットの担当者が工夫して、3ヶ月に一度研修を実施し、拘束の必要のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の入居が長いと言葉遣いがなまなまになったり、言葉足らずで利用者の方にご迷惑をかける事もあるので反省をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月ミーティングを行うことで少しずつ理解をして支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナの影響により契約を書面でのやり取りを郵送にしていたが、大切なご家族をお預かりするにあたってなるべく多くは、電話で説明をしてご家族に納得して頂けるまで話をした。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響により部外者を招き入れることはないが、ご家族や利用者の要望されることは、なるべく取り入れている。	家族とは面会時に、利用者は入浴等の時間を使って思いや意向を聴くようにしている。把握した意見は、握りずし等、食事のメニューや墓参りなどに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月本社にて介護事業部管理委員会を行っており、その後各ユニットでミーティングを行い意見や提案をしている。	職員とホーム長、管理者間の風通しがよく、何でも言い合える関係が出来ている。出された意見は、車両の購入や車いすに乗ったまま体重を計測できる機械の購入などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、ホーム長が出来る限りスタッフの話を聞き取りし、話し合いをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修は、定期的に行っている。個人的に研修会に参加している職員もいるが、コロナの影響により開催予定が中止になっていることが多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じグループ内での交流はしているが、ホーム長、管理者の行き来のみである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の暫定プランでは、本当に困っていることは取り上げにくい。時間をかけて少しずつケアプランに加えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や入居前に家族と情報交換をしたり、必要に応じられるように努力している。情報をもたえるように医療連携とも、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努力をしているが、その時々の場合に必要としている支援は理解をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の気持ちを尊重する努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響により、面会中止になる事が多い中、電話で話し合い支える気持ちで関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限りの事は、支援をしている。	コロナ禍以前は、同僚や知人、近所の人等の面会があった。現在は、電話の取次ぎや1階駐車場で面会等に対応している。家族の協力で葬儀に参列した利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの方がリビングで過ごして頂くように努めており、職員が間に入り談笑をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個々に合わせて努力をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と一対一で話し合い、利用者の思いを聞き出して、出来る限り支援できるようにしている。	入浴時など、利用者と一対一になる時間に話を聴くようにしている。把握した思いや意向は、花見や芋ほり、外食などに反映している。困難な場合は、筆談で意思確認したり、家族等との連携により、本人本位となるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族との会話や利用者の語る過去の話から知る事がほとんどだが、出来る限り反映に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい暮らしを一番に考えているが、全てにおいて希望通りにはならない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主張できる方は反映しやすいが、主張できない方は関係者の意見やアイデアを取り入れてケアプランを作成している。	利用者・家族の思いや意向を基に計画作成担当者が原案を作り、ミーティングで共有している。毎月、モニタリングを実施し、ケアマネジャーと連携して見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや介護記録などに書き込み職員がチェックするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者に合わせて支援を置かなっているが、利用者の希望と家族の希望の食い違う事がある為、少しでも楽しんで頂ける様に努力をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はもちろんの事、他科受診歯科往診、リハビリなど支援している。	2週間に一度、協力医と看護師の訪問がある。3階で行っている集団リハビリも月に2～3回あり、医療面での安心感を家族・利用者にもたらしめている。また、希望者のみ、週一回口腔ケアを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1度訪問看護を受けており、利用者の健康状態や思いなど情報交換をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、出来る限りの準備や情報交換に努めている。コロナの影響により、面会中止になる病院が多い為電話で様子を伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や関係者の要望や医師の診断の元、丁寧に説明し職員共に話し合い、チームとして看取りに取り組んでいる。	利用者・家族の意向を基に、利用開始時に事業所として出来ること・出来ないことを伝えている。重度化した場合、医師と24時間対応できる体制が整えられている。看取り前のミーティングでケア等について細やかに話し合い、チームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急や初期対応については、研修やミーティングなど行っているが、いざとなったら出来るかどうか不安はある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っているが、災害時はあまり行っていない。水害時は、地域の方が避難出来るように受け入れ可能にしている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。コロナ禍以前は消防署の参加を得て、救命講習等も実施した。水害時には地域の人も受け入れる準備が整っている。水やカセットコンロ等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的人権の保護をモットーに努めているが、判断が難しい場面もあるので、利用者の安全確保に努めている。	利用者が居室に在室時は内側から施錠出来るようにし、安心感を与えている。また、食事の遅い人も安心して食べ続けられるよう、傍につきそうようにしている。トイレ誘導時には耳元で言葉をかける等の配慮もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りの希望、要望、家族の協力の呼びかけをうけとめている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援しているつもりだが、ある程度の生活リズムを整える意味では、希望に添えない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の自由を尊重しているが、季節感がなかったり何枚も重ね着をされている方には、何種類かの服を提供し選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや筋取りなど出来る事はして頂き、職員も一緒に食事をしている。食後は食器拭きなどをお願いしている。	職員が手作りした食事を毎日、提供している。正月のおせちや雑煮・ひな祭りのちらし寿司など、季節感豊かなメニューとなっている。また、希望により、刺身やラーメン等も提供している。利用者も机や盆を拭くなど、持っている力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はあるが好みの問題や、栄養バランス、糖尿などその方に応じた食事を提供している。(ミキサー、刻み、トロミの対応を含む)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後は、口腔ケアを行っている。歯科往診も受けられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツやおシメを使用しているが、2時間おきのトイレの声掛けに努めており、トイレでの排泄を心掛けている。	細やかな記録と利用者の表情等から、タイミングよく言葉かけすることで、昼間はほとんどの利用者がトイレで排泄している。夜間は一人ひとりに応じた対応となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘や下痢などには気を付けており、ラジオ体操、水分補給や医師への相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきに入浴して頂く様にしている。失便をされたり、時間の希望があれば、優先している。	週に3~4回、午後を中心に入浴している。利用者の体調や希望により、回数や時間帯も柔軟に対応している。嫌がる人には、利用者に応じた言葉かけで対応している。入浴剤を用いるなど、入浴が楽しみとなるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が薬の管理をしていて、いつでも相談ができ、緊急時に対応してもらえる。薬状書に副作用や用法が書かれており、把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生き生きとした生活が送れるように努力をしている。洗濯、掃除など無理のないように配慮し、利用者と一緒にこなしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、無理のない程度に感染対策をして散歩に出かけたり、日光浴をしている。	家族等の手紙や葉書に返信するために、ポストまで歩いたり、建物の周囲の桜を見るなど、コロナ禍でも外出の機会を作っている。また、後樂園まで車で出かけることもある。選挙の投票に出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方もいれば、管理が出来ず家族から止められている方も居られる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナの影響で面会が出来ない分、電話での対応なり、手紙の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にカレンダーを貼ることで季節感を味わっていただいたり、食事や散歩など利用者に少しでも快適な生活が送れるように配慮している。	各階共に日当たりが良好で、温度や湿度の管理も適切になされている。各ユニットの玄関には、特徴を活かした縫いぐるみ等が、廊下には行事の写真・利用者の作品等も飾られている。利用者は洗濯物をたたんだり、各々のしたいことをしたりして、穏やかに暮らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は全て個室で、身体に合わせてベッドの位置など工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇など本人の大切にされている物など、安心して安全に生活をして頂けるように努力をしている。	利用者の動線を確保して家具が設置され、利用者はぬいぐるみや仏壇、テレビ、趣味の物(刺し子の作品など)、デイサービスに通っていた頃の作品を飾るなど、個々に利用者らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方にあつた役割や仕事などを安全に生き生きとした生活が送れるように努力をしている。		